

**令和3年度
第3回藤島地域振興懇談会
会議録(概要)**

期 日：令和4年3月15日(火)

場 所：藤島庁舎3階 大会議室

第3回藤島地域振興懇談会会議録（概要）

- 日 時 令和4年3月15日(火) 18:00～19:45
- 会 場 藤島庁舎3階 大会議室
- 出席委員（五十音順） 10名
井上佳奈子、上野隆一、大沼恒司、今野良和、齋藤金廣、
齋藤豪、佐藤智信、高橋俊一、高山千代子、原田孝昭
- 欠席委員 5名 池田玲子、伊藤公司、上鉢功一、齋藤直美、富樫えり
- 市側出席職員
〈藤島庁舎〉 支所長 成田讓
総務企画課長 小林正雄
市民福祉課長 長谷川郁子
産業建設課長兼エコタウン室長 上野衛
総務企画課課長補佐 渡部仁
総務企画課地域まちづくり企画調整主査 齋藤優
総務企画課主査 村田喜栄
〈本所企画部〉 地域振興課地域振興主査 飯野剛
政策企画課専門員 佐藤紘司
- オブザーバー 山形県立庄内農業高等学校 校長 加藤千恵
- 次 第
1. 開 会（総務企画課長）
 2. あいさつ（今野良和会長）
 3. 説 明 ・ 協 議
(1) 鶴岡市国土利用計画について 資料1・資料2
(2) 主な計画・事業について 資料3
・令和4年度藤島地域まちづくり未来事業 資料4
・令和4年度藤島地域主要事業
 4. そ の 他
 5. 閉 会
- 説明・協議
(1) 鶴岡市国土利用計画について
－ 説明 － 政策企画課専門員 佐藤紘司

(2) 主な計画・事業について

・令和4年度藤島地域まちづくり未来事業

－ 説明 － 総務企画課地域まちづくり企画調整主査 齋藤優

・令和4年度藤島地域主要事業

－ 説明 －

① 総務企画課長 小林正雄

② 市民福祉課長 長谷川郁子

③ 産業建設課長兼エコタウン室長 上野衛

今野会長

それではこれから意見交換に入りたいと思います。只今それぞれ説明頂いたまちづくり未来事業、並びに新年度の地域の主要事業について、皆さんからの率直な意見や情報などをいただきたいと思います。

委員

まずはお願いとお礼ですが、藤島中学校が明日予定通り卒業式を行う予定です。日頃から皆様に学校運営面でご協力いただきありがとうございます。来賓も呼ばず在校生もいない形での卒業式となりますが、無事に卒業できることに感謝を申し上げます。

藤島中学校では今年1月に天井の梁が落ちるということがありました。生徒に怪我も無く対策工事も行われましたが、今後中学校の改築に向けて文厚エリア事業として来年度動き出すということで、計画どおりのスケジュールで進むよう取り組みをお願いします。

今野会長

文厚エリアを含めて、中学校の改築について地域として力を入れていく必要があると思いますし、また、それに向けて計画どおりのスケジュールで進めて欲しいという意見をいただきましたが、これに関連してご意見を伺いたいと思います。

説明の中では、地域振興懇談会、自治振興会等様々な場で検討していくとのことですが、具体的にどういう形で進めていくのか、例えば専門家も入れて話し合うのかなど、その辺の基本的な部分を庁舎としてはどの様に考えていますか。

成田支所長

文厚エリアですが、喫緊は藤島中学校の改築が課題となります。ただ同じエリアには福祉センターの撤去等の問題、それから、藤島地域活動センターに付帯している武道館があるわけですが、これが中学校の改築とセットというのが既定路線です。その場合、活動センターに付帯する武道館は使わないことになり、施設の有効活用という面で、現在、総務企画課が

教育委員会と打合せしているところです。他にも言われていることは、地域内の3小学校の児童数から将来予測した場合、教育委員会としては小中一貫校という在り方も視野に入れているとのことでした。

また、信用金庫前の藤島児童館の老朽化及び狭隘化も問題となっており、こういった種々の問題があるため、どこから手をつけてよいかわからないというのが現状です。

令和4年度の方向性としては、こういった諸問題全体の話をするのは難しいため、各分野ごとに関係者を集め、それぞれで方向性や希望を出してもらおうことを考えています。その後、全体で集まり構想を組み立てるという方向性で進めることを教育委員会とも打合せを行っています。

今野会長

これまでいろいろと課題整理はしてきましたが、中学校の天井の崩落をきっかけに、安全・安心な教育環境に力を入れて整備を急ぐことが重要だと思います。

そこから中学校の校舎改築が進めば文厚エリアをどうするかということも進むので、個別、具体的に学校関係者から意見を聞くのも良いと思いますが、個人的には将来的に文厚エリアをどう活用していくかの意見交換を早めに進めてほしいと思います。

他にご意見はありますか。

委員

物事を成し遂げる上で、中心となるリーダーがとても重要だと思います。また、小中一貫という話がありましたが、小学校、中学校が同じ建物内にあるということなのか、各地域にある小学校が合併するということなのかかわからなかったのですが、いずれにせよ皆さんが納得する形にもっていくにはかなり壮大なプロジェクトであるように感じますので、着々と進めていかないと適切な時期に目標を達成できないと思いました。

今野会長

何事もそうですが、目標が無いとそれに向かったの気合が入らないと思います。やるべき具体的な目標をたてて課題整理をし、地域の皆さんが知恵を出し合って取り組んでいく必要があると思います。難しい課題ですがよろしくお願いします。

その他にご意見等がありますか。

(発言なし)

委員

文厚エリアが一段落したようなので、別の話題です。

今日皆さんに配布した地図は渡前のスタンレー周辺の地図ですが、今年は大変厳しい冬

となり矢印で示したところが局地的に猛吹雪に見舞われました。ここは国道なので市の管轄ではないと思いますが、鶴岡市として県に対して防雪柵の設置を要望して頂きたいと強くお願いします。それは、今年のような気象の場合、猛吹雪となり通勤者が、命の危険を感じるほどの状態となります。そのため、今年のような猛吹雪でも対応できるタイプの防雪柵の設置を藤島地域の総意ということで県に働きかけて頂きたいと思います。

上野産業建設課長

道路の方向と風向きを考慮した猛吹雪対策に有効なものとして、防雪柵のタイプ変更が可能かも含めて県に要望していきたいと思います。

成田支所長

補足します。藤島地域には県道改良促進期成同盟会という全地域的な同盟会があります。各町内会長等が会員となっていますので、その中で声を大にして庁舎の要望としてきちんと県に伝えていきたいと考えます。

委員

お願いします。

今野会長

今年の冬は特にひどく、事故も発生しております。防雪柵が付いていない箇所も相当あるので、なかなか簡単ではないと思いますが、懇談会で地域の強い意見があったということも藤島庁舎にも受け止めていただいて、大きい課題のひとつとして県にあげて頂きたいと思います。もし懇談会としての要望書や意見書等の提出が必要であれば対応しますので、よろしくお願いします。その他何かありますか。

委員

藤柵の整備事業の関連です。見応えのある藤柵育成ということを掲げていますが、藤島体育館周辺の藤柵と合わせてその付近の雑草などもきれいにしてほしいです。因幡堰土地改良区でふじしま夏まつりの前に、脇を流れるせせらぎ水路の清掃を高校生ボランティアと一っしょに毎年行っていますが、藤柵付近の雑草が気になりました。成田支所長に相談して職員の奉仕活動の日に雑草の処分をしてもらったのですが、せっかくの藤柵を直す機会なので藤柵以外に休憩場所等の雑草の手入れも含めて整備をしていただきたいと思います。

今野会長

要望として承りました。私からですが、先ほどのせせらぎ水路の近くに国営の水路が国道345号沿いに流れています。その西側に遊歩道がありますが、町内会の皆さんから散歩して

いると、管理が行き届いていないため怖くて歩けないという意見が寄せられています。予算の関係で1～2回の草刈りは行っているようですが、せっかく整備した遊歩道なのでもう少し管理をして頂けると有難いです。

その他何かありますか。

委員

立場上、農業振興についてですが、たがわ農協としてこれまで以上に米に力を入れていこうとしています。令和4年度からたがわ農協の営農販売部から米穀部が独立して、3ブランドの栽培から販売までを強化していこうとしています。

その様な状況の中で資料4の5ページ19番に新規事業として若手農業者美味しい米コンクールを開催するとありますが、若手農業者に絞ってコンクールを開催することに対する補足説明をお願いしたいと思います。また、鶴岡産米と記載ありますが、藤島産米としてもよいのではないかと思います。

上野産業建設課長

まずこの新規事業ですが、これは未来事業でふるさと納税を増やすための事業へのインセンティブとして認められた予算となります。なぜ若手農家に絞ったかについては、後継者育成という観点から若手農家のやる気喚起という意味で若手に絞ったものです。また、鶴岡市全体でふるさと納税を増やすということで藤島産米ではなく、鶴岡産米としております。

成田支所長

補足します。ご存じのように鶴岡市では一昨年からふるさと納税に力を入れております。令和2年度は10億円を達成しました。今年度は15億円に届きそうな勢いです。来年度は20億円を目標としており、その中で藤島地区は米によってふるさと納税額を伸ばすための予算を配当されており、来年度は倍増の納税額1億円を目指しています。若手農業者によるコンクールについては、そのメインの事業となります。その他、藤島と関係の深い大東文化大学の学生による首都圏での返礼品のPR事業なども展開します。これらの事業の趣旨としては、藤島の強みである環境にやさしい農業を実践する地域であるということを発信していくことにあります。

今野会長

今話を聞いていると藤島産で何がわるいのかなという気がします。他の地域と差別化を図るため藤島は有機農法に力を入れてやってきており、鶴岡産とは違う藤島産をアピールしてはダメなのではないでしょうか。

成田支所長

市役所の中で藤島産だけが特別な米ではないという反発もあるので鶴岡産という括りとなっています。ご理解下さい。

今野会長

その他、米の関係で何かありますか。

委員

生産者として、藤島産・鶴岡産にあまりこだわる必要はないと思います。美味しい米を作ってそれを提供して消費者に喜んでもらい、それに見合った金額で買って頂くということが大事だと思います。

安売り競争にならないように如何に差別化を図っていくかという視点では、若手に絞ったコンクールというのは面白いと思います。自分は父親の下で手伝いという形で就農して、お小遣いを貰って生活していました。車も住まいもお金がかからないので小遣いで十分に生活できたのですが、それでは仕事に対する責任も無いし、女性と付き合い結婚するのも大変です。そのため私は、自分の所得を確保することが責任に繋がるという思いから農業で起業しました。

過去の私のように現在の自分の状態にモヤモヤ感を抱きながら就農している若手就農者は多いと思います。そういう意味で今回の若手に絞ったコンクールというのはやる気の創出ということで面白いと思いますし、支持したいと思います。

委員

話が変わりますが、中学校の改築については絶対実現するという気概をもって取り組んで頂きたいです。それから、その他の要望としては、空き家問題が深刻な状況となっています。私の町内会でも現在 58 世帯ありますが、代が変わる 25~30 年後には 1/3 くらいが空き家になる見込みです。空き家の問題をどの様に解決するかを庁舎の方々からも提案していただきながら進めていけたらと思います。

今野会長

只今の要望に対して何かありますか。

小林総務企画課長

3~5 年間隔で空き家調査を行い、直さなくても使えるもの、直さなければ使えないものを調査しています。毎回空き家の数が増えてきており、今後も更に増える予想となっています。対応についてはなかなか良い策が出ておりませんが、早めに検討して対応する必要性を感じています。

委員

多分私のところも空き家になると思いますが、もし鶴岡市で若い方々が使いたいというのであれば無償で提供したいと思います。私のような考えの人が他にもいると思います。この様なことも調査しながら進めていただければと思います。

成田支所長

現状、鶴岡ランドバンクで市街地だけですが移住者等に空き家を斡旋するアプローチを行っています。この様な取り組みを拡大する動きもあります。身近なところでは、宝徳町内会に新規就農者が空き家を使って移住してきた人もおります。

一方、羽黒地域や朝日地域では今年の豪雪で空き家の倒壊が相当あったそうです。こういった危険なこともあり、藤島だけでは難しい面もありますので本所とも相談しながら進めていきたいと思っています。

今野会長

人口減少・高齢化は国・県・地域共通した問題だと思いますが、空き家についても今後10年、20年先には相当数発生することが想定されます。こういったことを踏まえながらの地域づくりということを考える必要があると感じます。また、この度、荘内銀行が庁舎から撤退します。旧銀行スペースを庁舎としてはどのように活用する計画でしょうか。

私としては、社会福祉協議会が現在、産業建設課の隣にあるわけですが、包括支援センターとのワンストップの関係を構築できるように市民福祉課の隣の旧銀行スペースがあれば便利だと思いますが、どのように考えておりますか。

小林総務企画課長

荘内銀行藤島支店が本店営業部に統合されて本店での営業となります。庁舎前にあるATMコーナーについては引き続き存続すると聞いています。包括支援センターとの福祉のワンストップ化ですとか、また、別の使い道がないかといったことも考えられますが、庁舎のWeb会議が増えている状況もあり、当面は会議室としての利用を考えています。コロナ収束後のワンストップ化などについては、今後各団体と協議していきたいと考えています。

長谷川市民福祉課長

ワンストップをという話が出ましたが、包括支援センターについては経費の関係もあり直ぐに実行できる状態ではないので、今後話し合いをしていく必要があります。

今野会長

今の段階では了解ですが、社会福祉協議会に訪れる人は色々な悩みを抱えて相談に来る人が多いわけなので、出来れば入口を別にして現在の荘内銀行のところから入れるように

してもらえれば利用しやすいと思います。直ぐには結論は出ないとは思いますが、ひとつの考え方として捉えてもらえればと思います。

その他、皆さんご意見はありますか。

委員

荘内銀行に関連した要望です。市の施設を使って使用料が発生した場合、荘内銀行に納めるというパターンがあります。これまで庁舎内に荘内銀行窓口があったので便利だったのですが、これからは全て本所に行かないといけないことになります。支払伝票を庁舎で取り扱うように考えてもらえないでしょうか。

もう一点、藤島庁舎に行ったときに入口付近に『今日どこの部屋でこのような会議があります』といったことが分かるようにしてもらいたいと思います。ロビー奥に掲示版はありますが、書いていない場合が多々あるので活用した方がよいと思います。

長谷川市民福祉課長

市施設の使用料の収納については、荘内銀行だけでなく他の金融機関でも納められますし、市民福祉課でも取り扱いますので、市民福祉課窓口に来てもらえればと思います。

成田支所長

会議の案内掲示については、ここに4人の管理職がおりますので明日から早々に改善されると思います。

委員

藤に関連した質問です。Hisu 花では冬場にイルミネーションを実施していますが、年々イルミネーション数も増えて充実してきており来場者も増えていることと思います。来場者数については人数把握しているのでしょうか。あと、イルミネーションの期間を長くしてほしいという意見を聞いたことがあり、期間延長には色々な問題があると思いますが冬場のイルミネーションは、綺麗なことからもう少し長くしてもらえないでしょうか。

また、せっかくの集客のための施策を行っているので、お金を落としてもらええるような経済効果的なことも考えてもらえればと思います。

それから、藤の管理のエキスパート養成というのがあります。私のいる長沼活動センターや町内会に藤棚がありますが管理するのが大変です。藤の育成団体に指導してもらったりしましたが、なかなか咲いてくれない状況です。エキスパート養成もいいのですが、藤の管理方法を広く普及させる取り組みもしてもらえればと思います。

総務企画課地域まちづくり企画調整主査

Hisu 花のイルミネーションの規模を現在の形に拡大したのが平成30年です。その際 Hisu

花ワークショップという市民団体が立ち上がっており、その団体がイルミネーションを中心に色々なイベントを実施していく仕組みを作りました。最初の年は実行に移すのに時間がかかり12月23日にスタートし、知名度がない中、約1ヶ月間の点灯でしたが5,700人の来場がありました。翌年は11月3日から約2ヶ月の点灯期間でしたが、イルミネーションの知名度も上がり約20,000人の来場がありました。令和2年度はコロナ禍ではありましたが、更に増え22,000人となり、今年度は27,000人まで増加して、Husu 花の知名度が確実に上がっております。

イルミネーションの期間については点灯期間を長くしてほしいという要望はありますが、除雪管理の問題があり難しいです。機械での除雪が不可能な箇所がかなりあり、1月の成人式のあたりまでの点灯が限度と考えています。雪があるときのイルミネーションはきれいに見えると言われますが、実際の来場者数は、雪が降ると一気に少なくなります。今年は27,000人の来場者がありましたが、そのほとんどが雪の降らない11月となっています。それから風雪によるイルミネーションの劣化もありますので、Husu 花ワークショップでは期間を11月3日から1月の成人式前までと決定したという経過があります。

イルミネーションの経済効果ですが、実際は、藤島の飲食店で食事をするとか、お土産の購入でお菓子屋さん立ち寄りといったことは増えているはずですが、それを調べる術がないため数字ではっきりとは表れていない状況です。来年度は何とか出せるように策を考えたいと思います。

成田支所長

補足します。経済効果の部分では、産業建設課から商工会にアプローチはしていますが、地元のお店のHusu 花への出店までには至っていない状況です。しかし、キッチンカーで定期的に出店している人が6~7名いると聞いています。地元のお店に頑張ってもらいたいところなので今後も商工会にアプローチしていきたいと思います。

また、今年は初めて庄農の生徒さん達が、庄農独自のクリスマスイルミネーションということで飾り付けを行いました。Husu 花ワークショップが主体の取り組みではありますが、自分たちが飾ったという参加意識も生まれ、こうした取り組みは重要だと考えます。今後、中学校などにも働きかけて、参加団体を広げていければと思います。

小林総務企画課長

藤棚の件ですが、エキスパート事業ということで藤友クラブから研修を行って頂いております。藤の花まつりで藤の盆栽の育て方ということで藤の相談会を行っています。藤の相談会で聞くこともできますが、藤友クラブに藤の育て方等のチラシを作ってもらえるかや相談会を随時開催してもらえるか等を相談していきたいと思います。

委員

イルミネーションもかなり定着し、11月～12月のコロナが落ち着いた時期は私の店にもお客さんがかなりみえられました。経済効果はかなりあったと思います

今野会長

その他何かありますか。

委員

要望です。JAに藁工芸部会というものがあります。会員が高齢化しており材料の藁の確保も容易でないということもありますが一番は後継者問題です。藁文化を後世に伝えていく事は重要なことであると思いますので、まちづくり未来事業の「歴史と文化交流の彩るふじのまちづくり」で取り組んでもらえればと思います。

委員

私のところでは米俵を作って販売させてもらっています。後継者不足というのはお金にならないので後継者が育たないし、確保できないのだと思います。私のところでは最初60kgの米俵一俵が5,000円でしたが、今では12,000円くらいに上げています。作ってくれる人にそれなりの対価を払わないと趣味で終わってしまいます。作ってくれる人に適切な報酬を渡せるように販売努力もしていますし、製造コスト削減の方法も探りながら運営しています。今、藁工芸部会から俵やしめ縄を提供してくれている人がいます。この人の技術を若い人に伝えてほしいとお願いしました。後継者を育てるにはフォローとそれなりの対価が必要だと思います。

今野会長

時間も予定を超過しましたが、庄農の加藤先生、新年度の取り組みについてお話をお聞かせください。

加藤庄内農業高等学校校長

産業建設課長からもご紹介していただきましたとおり、庄農うどんが山形県民活躍大賞を受賞させていただきました。庄農うどんに続くものとして、今学校では庄内産小麦とその活用ということで取り組んでいます。まだプランの段階ですが、そのプランが鶴岡市ビジネスプランコンテストで特別賞を頂いております。

現在の本校の状況について少しお話させていただきます。

山形県の教育委員会には高校整備計画というものがあり、高校の統合等の計画があります。鶴岡の中高一貫校もその計画のひとつです。庄農は現在、2学科2クラスですが、2クラスの学校は志願者が定員の2/3に満たない年が2年続いた場合、1学級減とするというルールがあります。本校は昨年と今年、2年連続して定員の2/3を確保することができませ

んでしたが、庄内唯一の農業学校であるということを踏まえて当面の間 2 学科体制を維持するという県の判断でした。

本校としては農業高校としての使命を果たすことを期待されての判断だと受け止めています。農業後継者の育成に力を入れていきたいと考えています。農業高校でなければできないことをやっていくということで頑張っていきたいと思います。そのためには地域のご支援を賜りたいと思います。宜しく申し上げます。

今野会長

他にございませんか。それでは事務局へお返しします。

小林総務企画課長

それではこれで地域振興懇談会を閉会いたします。

本日はありがとうございました。